

学校法人 滋慶学園 東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校 学校関係者評価委員会

【令和5年4月2日実施】

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価委員からの意見 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
1 教育 理念・目的・ 育成 人材 像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4	学校法人滋慶学園 東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校(DA)は、学校法人滋慶学園グループ(※1)に属し、「職業人教育を通じて社会に貢献していく」ことをミッション(使命)としている。	(※1)「学校法人滋慶学園グループ」昭和51年の創立以来、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことを目的に、全国に専門学校・教育機関を設置し、建学時から変わらない「3つの理念」(実学教育、人間教育、国際教育)を実践することで、「4つの信頼」(学生・保護者からの信頼、高等学校からの信頼、業界からの信頼、地域からの信頼)を得るコンセプトを掲げ、業界に必要な人材を業界と共に育成してきました。	【評価点：3】 日本だけではなく、世界を目指してほしい(菅野氏)
	1-2 学校の特徴は何か		建学の理念に基づき、東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校は、「音楽&エンタテインメントを通して、人に喜びや感動を与える「即戦力」の人材として就職・デビューすることを目的に学校運営をしている。	医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・クリエイティブ、エコ・音楽・ダンス等、多岐にわたる分野で全国展開をおこなっており、スケールメリットを活かし様々な学校間において連携教育を実践している。	卒業後、リアルな現場にいる俳優はもっと生き残り必死です。「即戦力」という部分でマインドも含めてまだまだ足りない状態で現場に出てしまっている十代の俳優がゴロゴロいる中で「学生」という認識を卒業に向けてもっと外して行かないと学生自身が理想と現実のギャップに追いつかないと感じます。僕は特に本当に0からのスタートでしたので京山の苦労をしました。その中の一つが「情報」です。リアルな現場はどういうところなのか、どれだけ厳しい場所なのかを知れたら強いと思います。(高木氏)
	1-3 学校の将来構想を抱いているか		現在、音楽&エンタテインメント業界を取り巻く社会の環境は大きく変化している。『産学連携教育システム』業界に必要な人材を業界と共に育成していくを教育の柱にし、業界・企業との連携を深め人材の育成を実現してきました。	(※2)「実学教育」 スペシャリストが求められる時代に即し、業界に必要な人材を業界と共に育成する専門学校として、即戦力となる知識・技術・現場力を教授する。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築してきました。	3年制、4年制課程は長すぎる。2年制で充分である。1年制でもいいと思う。エンターテインメントにおいて若い感性は宝である。もちろん基礎が大事ではあるが業界に入らなないと成長できないことは多い。安定した学校経営的に学生を長く学ばせることは必要なのかもしれないが本当に学生のためにしているのか、さらには学校のためにしているのか、真剣に考えていただきたい。(百田氏)
2 学校 運営	2-4 運営方針は定められているか	4	また、社会人基礎力は、もちろんこの職業の現場で求められる知識・技術の高度化や、より付加価値の高い人材の必要性を背景に、本校では、2年制課程のみならず、3年制課程も設置し、キャリア教育の充実を図っている。	(※3)「人間教育」 キャリア教育の一環として、開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。	【評価点：4】 学生が辞めることのないように(菅野氏)
	2-5 事業計画は定められているか		そして「国際教育」に基づき、国内だけでなく世界で活躍できるグローバルな人材育成にも力を入れると共に、「TSM渋谷」としてのブランド確立を目指す。	(※4)「国際教育」 コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う。	武器をたくさん持たせてあげるべき。(高木氏)
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか		社会(諸環境)の変化に対応できるように、滋慶学園グループの示す毎年の長期・中期・短期展望を基に、滋慶COMグループに属する各学校在、短期事業計画を毎年作成している。この事業計画書が各学校における運営の核となるものである。	各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。	これだけの施設をもっておられ教員の方々もしっかりされているとは感じました。(百田氏)
	2-7 人事や賞金での処遇に関する制度は整備されているか		事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ている。それを受け、各学校では毎年3月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための研修も行っている。	学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。	次代を担う人材を育成するということは相当なご苦労があると推察します。業界から求められることを実現できる人材を育成するためにとても厳密に考慮されているのだと感じました。(三枝氏)
	2-8 意思決定システムは確立されているか		事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に記載されている。	【評価点：4】 先生方の実務、理念の共有ができていると感じる。(田村氏)	
	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか		運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。		

<p>3 教育活動</p>	<p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられ</p> <p>3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施、評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-18 資格取得の指導体制はあるか</p>	<p>3</p>	<p>本校の目的である職業人教育は、常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の人材行動を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。</p> <p>本校は教育システムとして、独自の「産学連携教育システム」を構築しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界に必要な人材を業界と共に人材を育成、輩出できている。教育目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで、体系的に編成されているが、常にパフォーマンス教育部会等で研究、見直し等を行っている。</p> <p>カリキュラムは学科に関わるもののみならず、社会的・職業的自立を目指し、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、授業評価を実施しているが、これを通して講師や学生の状況を正確に把握し、総合的な判断ができる要因となっている。</p> <p>成績評価の基準を明確にし、学生指導を行っているが、明確な基準と共に、柔軟な対応ができる余地を残すことで、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できるサポート体制を作っている。</p> <p>資格取得については、業務を行う上で必要な資格、就職に有利な資格という範囲で取得に向け支援を行っている。例えば、レコーディングエンジニアコースではJAPRSサウンドレコーディング技術認定試験、音響（PAエンジニア）においては3級舞台機構造音響技能検定、照明においては2級照明家協会技能検定試験、学年全体へは業界のDX化に対応し、マイクロソフトが提供するクラウドサービス「Microsoft Azure」の全体像を理解していることを認定する資格「Azure Fundamentals」への合格をそれぞれ指導している。</p>	<p>本校の教育の柱である「業界に必要な人材を業界と共に育成する」産学協同教育により、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につける。企業プロジェクトでは、企業からの課題や企業が実践する現場に学生たちが参加することで「現場力」を身に付ける。また、業界研修、海外実学研修、特別ゼミ、キャリアセンター・デビューセンターなどを充実させている。</p> <p>教育システムのさらなる開発・充実のため、滋慶COMグループの音楽&エンタテインメント系全校から構成する「パフォーマンス教育部会」を設置し、システムの共有化、レベル向上化を図っている。</p> <p>主な研究内容は、①教育指導法・技法の開発 ②カリキュラム検討 ③生涯教育プログラム ④教職員研修 ⑤国際教育システム開発 ⑥イベント・卒業研究の運営等である。</p> <p>キャリア教育の一環として行なわれる、入学前の自己発見→入学後の自己変革→卒業後の自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たし、プロ・職業人としての気構え・身構え・心構えを身に付けてさせることである。</p>	<p>【評価点：3】</p> <p>資格は必要な時代になってきたので、ぜひ合格者が増えることを望む。(菅野氏)</p> <p>個人的に卒業後10年経ってから元担任に事務所の移籍に関して相談し学校の皆さんで動いてくださった経験があり、とても助かりました。一般の仕事とは全く違う世界ですのでデビュー後にも相談できたのはありがたいです。(高木氏)</p> <p>デビュー・就職に力を注いでいることはうかがえる。(百田氏)</p> <p>プロとして活躍していく貯めのスキルは2年間で身に着けるには大変だと思いますが卒業後も安心して夢に向かえるように今後もサポートを期待します。(三枝氏)</p> <p>在学、卒業の方と仕事をすることで基礎的なパソコンソフトの使い方はできているが、現場のスピード感がまだまだなのでより現場体験ができることよと思う。(田村氏)</p>
<p>4 教育成果</p>	<p>4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-20 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>4-21 退学率の低減が図られているか</p> <p>4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p>3</p>	<p>教育成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、専門就職(就職者/専門分野就職者)100%、退学者0名を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。</p> <p>導入教育から一人ひとりに合わせたカリキュラムづくりを念頭に、産学連携教育の充実など様々な取り組みの努力を重ね、今後も学生個々の徹底したフォロー、カリキュラムの工夫、担任制度の強化、学生カウンセリングの強化等々を実施している。</p> <p>また、卒業後の進路として、就職希望者・デビュー希望者に向けたプログラムを通じて支援を行っている。専門就職率、就職希望者率の向上も課題として取り組んでいる。また、デビューセンターを開設し、デビューを希望する学生を卒業後もフォローし、卒後もデビュー者が増加している。</p>	<p>「職業人教育を通じて社会に貢献する」滋慶学園グループの教育成果の1つである就職は、キャリアセンターを中心とし、年々専門就職率が向上しているが、努力を続けている。また、もうひとつの出口であるデビューに向けて、デビューセンターの強化を行い、企業との連携・プロジェクトの充実・サポート制度などを確立している。</p> <p>「国際教育」の観点より、グローバル人材の育成を目的に、MIP(ミュージシャンインターナショナルプログラム)を実施、音楽・エンターテインメントの本場アメリカより現役のミュージシャンを招き、日本にいながら一流のテクニクを学べる機会としてだけでなく、語学力や身構え・気構え・心構えなどマインド面の育成にも力をいれた教育プログラムを実施している。</p> <p>卒業後のサポートも行っており、求人票の告知・オーディション情報を提供し、就職希望者率の向上や卒業後の就職・デビューサポートの充実を図っている。</p> <p>学生が目標を達成できるよう、保護者の方々との三位一体での支援体制を実践。</p> <p>退学率では、目標に向けたカウンセリングの強化・目標の変更に対応するため転校・転科等進路変更説明会、学費相談会・保護者会の充実・講師との学生が抱える問題の共有などの学生の「なぜ?」に答える」をキーワードに現状以上に体制を整えていく。</p>	<p>【評価点：3】</p> <p>退学者0を目指していますが途中で合わなくて辞める方がいるのは仕方ないと思います。(菅野氏)</p> <p>実際に現場の人間の声を生徒にもう少し聞かせる機会をもう少し増やすべきだと思います。心構えは現場に出ないと正直なところ分からないと思います。(高木氏)</p> <p>「100%0名を目指さなければいけない」現実的には不可能だと思う。100%0名を達成するための具体的な対策がよく分からない。(百田氏)</p> <p>退学者0、就職率100%とはすごい一言に尽きます。(三枝氏)</p> <p>毎年業界関係スタッフに就職し、活躍しているイメージを持つ。(田村氏)</p>

5 学 生 支 援	5-23 就職に関する体制は整備されているか	4	<p>学生が目標を達成するための支援には、学業の面と生活環境面を整備していくことで支援に繋がると考える。しかし、支援はあくまでも支援である。例として、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断などとみならず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果がない。それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。</p> <p>学生支援には、① 就職・デビュー ② 学業 ③ 学生生活 ④ 健康 ⑤ 学費 ⑥ 保護者連携 ⑦ 卒業支援などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者も置いている。</p> <p>① 就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職の相談、幹事、面接他各種指導などの支援をしている。また、デビューでは、デビューセンターを設置し、企業の招聘・オーディションの開催・プログラムの充実を図り支援している。</p> <p>② 学業については、担任が授業の出席状況などを逐一把握し声掛けをしている。また各授業を受け持つ講師との連携も徹底し、学生の動向を把握、支援している。</p> <p>③ 学生生活については、各担任を中心に、別途精神的なケアのためのSSC(スチューデント・サービス・センター)という悩みや相談を受けける専門部署を置き支援し、学業と併せて中途退学にならないよう支援している。</p> <p>④ 健康については、滋慶学園グループのクリニックである産生会クリニック(葛西)が担当し、在学中の健康管理を支援している。</p> <p>⑤ 学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。</p> <p>⑥ 保護者連携については、入学前、そして入学後についても保護者会を開催し、本校の取り組みへの理解と、現状報告を行い、目標を共有し、学校と保護者が連携して学生の支援が行える体制作りを整えている。</p> <p>⑦ 卒業支援については、キャリアセンターが事務局となって実施する同窓会他、デビューセンターが中心となっているデビュー支援など、生涯にわたって支援を継続していく。</p>	<p>滋慶学園グループでは、「一人ひとりを大切に」という考えのもと教育にあたっているが、本校でも学生を第一に考え、様々な支援体制を整備している。その中でも、「就職・デビュー」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンター、デビューセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。</p> <p>キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修」のコーディネートから、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職給付等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。また、求人情報等を学生が自宅のパソコンでも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」、一斉メールなどシステムの構築し、迅速な対応ができるように支援している。</p> <p>デビューにおいてはデビューセンターが設置され、オーディション情報の整備やデビューするためのプログラムづくり、また新人発掘プレゼンテーションでは、毎年累計600社を超える企業が学校に来院し、学生が企業とつながる機会を作っている。また、卒業後の支援活動の強化を行い、目標の職業につながるよう「就職」と並ぶ重要項目である、「教育」については、教育環境を整備し、成果を上げている。即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとシレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業など、オンラインを旨とする学校として十二分な体制を確立している。</p> <p>また、精神的に、あるいは肉体的にもクラスの授業についていけないなどの問題を抱えた学生のため、SSC(スチューデント・サービス・センター)を設置し、スクールカウンセラーがカウンセリングを行うなどサポートをし、卒業まで退学率減少に繋がっている。</p> <p>他にも、まだ日本語に不慣れな留学生に対しては、日本語対策という授業を別途設けフォローアップしている。</p>	<p>【評価点：4】 学生とのコミュニケーションをとることは中々難しいと思いますが、先生の方から聞いかけを増やしていったらいいかと思う。(菅野氏)</p> <p>卒業後の支援は必要であると感じます。ただし、僕の場合委は自分から動いた場合もあります。だからこそその結果も出てきました。本来は自分からうごくべきなのでこれが正解だと思いますが、常々すべての生徒を気にしすぎる必要はないと思います。(高木氏)</p> <p>精神的ケア・健康について支援しているのは高評価。心と身体は健康なくてはエンターテインメントは作れない。(百田氏)</p> <p>途中で挫折を経験することは多々あると思いますが、あらゆるサポート体制があるとのこと。とても安心できます。(三枝氏)</p> <p>先生が一人一人の学生と向き合い、よく面談をし相談に乗ってあげていると感じる。(田村氏)</p>
	5-24 学生相談に関する体制は整備されているか				
	5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか				
	5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか				
	5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか				
	5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか				
5-29 保護者と適切に連携しているか					
5-30 卒業生への支援体制はあるか					
6 教 育 環 境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	<p>施設・設備、機材等は業界で即戦力となり得る人材を育成するためのものであり、最新・最良のものを完備する考えで運営しており、教育上、充分な対応ができていると考える。毎年、事業計画をおこない、予算を計上し、ほぼ計画通りに更新もできている。</p> <p>本校は即戦力の人材育成を目的としており、そのための教育体制は整備されている。特に業界研修(インターンシップ)においては、企業側と綿密な連携をとり、十二分な学習環境を設定している。また、海外プログラムでは、それぞれの専攻等において大きな学習効果の得られる教育機関、企業と連携し、ワークショップ他を行っており、充分な教育体制を整備していると考えられる。</p> <p>本校では、教職員が常に災害を意識している。毎年、教職員、学生の防災訓練を実施し、地震や津波、火災等の際の避難訓練経路を確認するなど、防災体制を確立し、チェックしている。</p>	<p>本校では常に教育効果を考慮し、現状の業界環境と今後の展望をリサーチの上、機材等の購入を実施している。また、PC関連機材についてはメンテナンスが重要であり、学園サポート企業と綿密な連携を計りその対応にあたっている。またオンライン教育の導入を行い、ZOOM、TEAMSを使った遠隔教育を導入した。</p> <p>業界研修(インターンシップ)の教育効果と成果は非常に高いものがあるが、単なる学習の場としてだけではなく、毎年、この研修から多くの就職内定に結びついている。また、海外プログラムは本校の建学理念の1つである「国際教育」実現に大きな役割を果たしている。</p> <p>教職員対象の防火訓練、教職員・学生対象の避難訓練を毎年実施し、災害に備えている。そのため、マニュアルを整備し、教職員の役割分担作成・確認、学生への情報提供など、体制は整備されている。</p> <p>毎年、事業計画で計画し、予算計上の上、計画通りに購入・更新等を行っているが、これ以外の学外教育環境も教務部、キャリアセンター、国際部が丸とあって整備しており、これは本校の大きな強みと考えている。</p>	<p>【評価点：3】 ハード面は日進月歩で進んでいくと思うが、ソフト面での教育内容を充実させていきたいと思っています。(菅野氏)</p> <p>コロナ禍において環境を作ることはとても大変なことだと思うが、もう少しがんばっていただきたい。(百田氏)</p> <p>とても良い間協を用意してくださっていると感じます。(三枝氏)</p> <p>コロナになった際、ZOOM、Teamsなどの対応を行い、教育を止めない、その場でできることを行う。堅くなくフットワーク軽く色々実施していた。(田村氏)</p>
	6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか				
	6-33 防災に対する体制は整備されているか				

<p>7-34 学生募集活動は、適正に行われているか</p>	<p>7 学生 の 募 集 と 受 け 入 れ</p>	<p>4</p>	<p>本校は、東京都専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO入試等)を遵守している。また、過大な広告を一切排除し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学校募集ができるように配慮している。</p> <p>さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容を正しく知ってもらうように努めている。</p> <p>これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるもの個人情報・流出、校内に個人情報委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理の徹底を図っている。</p> <p>入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、「入学選考会議」により、可否を決定する。</p> <p>なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するもので、入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。</p> <p>学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。</p> <p>保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。</p>	<p>学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。</p> <p>広報活動では「学校の特色を理解してもらう」ことを強化している。</p> <p>本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージをどれだけ明確になっているかが大切と考え、職業体験や説明会への複数回参加を促し、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。</p> <p>教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ、過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報主任等が常にチェックしている。</p> <p>本校は、一般社団法人日本プライバシー認証機構「TRUSTe」の国際規程の認証を受けている。</p>	<p>広報活動で学校の良さをアピールしてほしい。(菅野氏)</p> <p>生徒さんに対してはとてども誠実な対応をしていることがうかがえる。(百田氏)</p> <p>芸能界での活躍は自分が分かりづらいので万人に明確な成果を伝えることは困難だと思います。それでもこの学校で学べば夢をかなえられるんだ! というメッセージを伝えられるように卒業生の活躍を見える化して公表していけたら素敵だなと思います。(三枝氏)</p> <p>常に広報をしているのではなく、学生のニーズに合わせている印象。広報で掲載する際も文言確認を行い入学者に対して誤解を生まないようにしている。(田村氏)</p>
<p>8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p>	<p>8 財 務</p>	<p>4</p>	<p>財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。</p> <p>毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。</p>	<p>予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。</p> <p>①正確かつ実現可能な予算の作成</p> <p>予算は短期的、中長期的の2種類がある。短期的は次期1期間のもの、中長期的は2～5年間のものがある。</p> <p>当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。短期的な予算編成は当年度の実績を基礎に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。</p> <p>正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものとなればそれは修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすこととしている。これにより、短期的にも中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組むことができる。</p> <p>②①のための体制作り</p> <p>①のように実現可能な予算作成するためには、その体制作りが必要になる。</p> <p>事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。</p> <p>さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。</p> <p>作成した決算書、事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供することとなる。</p>	<p>【評価点：4】 財務の情報公開は今後も続けていってほしい。(菅野氏)</p> <p>財務がしっかりしていなければビジネスは成立しないのでここはしっかりされていると評価します。(百田氏)</p> <p>運営についてはよくわかりませんが不安を感じたことはないです。(三枝氏)</p> <p>明確な予算管理ルールを順守し、それが実行できていると感じる。(田村氏)</p>
<p>8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p>					
<p>8-40 財務について会計監査が適正に行われているか</p>					
<p>8-41 財務情報公開の体制整備はできているか</p>					

9	法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。 法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかは次ぎの各調査等においてチェックできるようにしている。	すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。	【評価点：4】 チェックを続けてください。グループとしての運営期待します。(菅野氏) コンプライアンスをきっちりしていなければ生き残れない世の中です。しっかりされていると評価します。(百田氏) 昨今コンプライアンス遵守は必須になっているのが項目についてしっかりと考えられていると感じます。(三枝氏) コロナ時、学生が現場に出る際もコンプライアンスを確認し学園の方針にふれずに実行している。(田村氏)
		9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか		① 学校法人調査 ② 自己点検・自己評価 ③ 学校基礎調査 ④ 専修学校各種学校調査等である。 組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 (A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) (B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ)	方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることにした。 委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発の防止対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。	
		9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか		滋慶学園グループ、滋慶学園COMグループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健在な学校(学科)運営ができるようにしている。		
		9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか				
10	社会貢献・地域貢献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4	滋慶学園グループの「職業人教育を通じて社会に貢献する」を実現のために3つの建学理念を實踐し、「4つの信頼」(①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼)を得るコンセプトがあり、この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。 例えば、100回を超える骨髄移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」では、骨髄移植推進財団の後援・厚生労働省の推薦、業界企業や団体からの支援をいただき、出演・運営・制作の全てを学生が作り上げ、骨髄移植の理解と売り上げを募金する活動を行っている。また、来場者には多くの著名人や中学・高校の総合学習の時間を使った観覧があり、命の大切・素晴らしさを訴えている。 市民イベント、また地域の方々が行うイベントへの参加・出演を行ったり、渋谷の街の花壇清掃などを通じ、「地域からの信頼」につながるよう努力している。 また、本校スタッフ・本校講師・卒業生が高校へ出向いて行う特別講義、部活動支援等では、「高等学校からの信頼」につながるよう努力している。	本校では、教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を行っている。「学生・保護者からの信頼」、「高等学校からの信頼」、「業界からの信頼」、「地域からの信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がり、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。 地域への貢献では、花壇清掃やイベントへの機材提供などでできることから支援活動を行っている。 また献血や骨髄バンクドナー登録を推進を目的とした渋谷区で行われるイベント「SNOWBANK」への参加も積極的に取り組み、多くの来校された人々に音楽を通じてその素晴らしさを伝えることが出来たと考える。 このような活動を今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、社会貢献へ発展させていく考えである。	【評価点：4】 私共商会在年2回ほど宮益坂で花植えを行っているが、学生さんが参加してくださって町を綺麗にしてください。非常にありがたいことで大変感謝しております。(菅野氏) 学園祭も学生の思い出として大切ですが、例えば渋谷の映画館等と手を組み作品を上映するなどより外との直接的なつながりを作ることも地域のため、学生の将来のためにもなると思います。(高木氏) 大都会渋谷にある貴校がどのように地域の貢献をしているかが今一つよくわからなかった。(百田氏) 「明日への扉」など社会貢献についても力を入れている点はとても素晴らしい活動だと思います。何か力になりたいと考えても具体的にどうすればよいか分からないという人たちに方法を示していると思います。(三枝氏) 毎年実施している「明日への扉」を通じて社会・地域貢献をしている。(田村氏)
		10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか		滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」運動で節電、冷房温度28度設定、階段利用(2アップ3ダウン)や、イベント等におけるゴミ削減、資源有効利用等々を行っている。 それらの教育活動を通じて「学生・保護者の信頼」につながるよう努力するようにしている。特別なことをするわけではなく、滋慶学園グループが掲げる「4つの信頼」の獲得を目指すことが、すなわち社会貢献を果たすことに繋がっていると書いている。		